

高齢者用肺炎球菌ワクチン予防接種の注意事項

肺炎球菌感染症とは？

肺炎球菌性肺炎は、成人肺炎の 25～40%を占め、特に高齢者での重篤化が問題になっています。侵襲性感染症(化膿性髄膜炎、敗血症、肺炎など)を起こすことがあります。中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎の起因菌となることもあります。脾摘患者、無脾症、リンパ腫などの患者では重篤になることが知られています。

予防接種の効果

肺炎球菌による肺炎の重症度と死亡のリスクを軽減させます。
わが国でもインフルエンザワクチンとの同時接種で、肺炎リスクの高い高齢者においては肺炎予防効果と医療費抑制効果が示されています。

予防接種を受けることが適当でない人

- ① 明らかに発熱のある人(体温が37.5℃以上の場合)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることがあきらかな人
- ③ 予防接種液に含まれる成分により、アナフィラキシーショック(通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応)を起こしたことがあることが明らかな人
- ④ その他、医師が接種不適切な状態と判断した場合

医師とよく相談して接種を受ける必要のある人

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する人。
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある人。
- ③ 過去にけいれんの既往のある人。
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人。
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを起こす恐れのある人。

副反応について

海外及び自発報告では、局所の疼痛、熱感、腫脹、発赤が5%以上認められます。筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱、が認められることもあります。医療機関から副反応の疑い例として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は0.0019%です。

※予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがありますので、医療機関で様子をみましょう。

※重篤な副作用が生じた場合、高齢者は厚生労働大臣が予防接種と因果関係があると認めた場合に、予防接種健康被害救済制度に基づく救済を受けることができます。

お問い合わせ先： 土岐市 健康福祉部 健康推進課(保健センター)

TEL 55-2010